

科目名	教育心理学概論
科目名(英訳)	Educational Psychology
科目ナンバー	PJ141B08
担当者 (非)は非常勤講師	三島 浩路
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	春期毎週
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 三島 浩路:月3-4
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	現代教育学科の共通科目(必修)である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:◎ ③:○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	/ 専門的知識・技能 思考力 多様性

授業の主旨 (概要)	教育心理学は、子どもを発達主体として理解し、その発達を促す教育的働きかけとは何か、心理学的な視点から考える学問である。本講義では、学習や動機づけのメカニズム、学習指導のあり方、教育評価の方法、子どもの多様性、学級内の人間関係など、教育心理学の基礎的知見について理解を深める。加えて、不登校、いじめ等についても議論する。主に1年生を対象とした講義であるため、実践的な方法論を習得することよりも基礎的な理解を身に着けることに重点を置く。		
具体的 達成目標	1. 子どもの学習のメカニズムに関する基礎的な心理学的知識を獲得する。 2. 子どもの学習を促進する効果的な学習指導のあり方についての専門的な知識を得る。 3. 不適応問題のメカニズムと対処のあり方について説明できる。 4. これらの知識に基づいて、学校現場で生じる多様な教科指導上または生徒指導上の問題に対して、自ら対処の方法を思考し見出すことができる。		
授業計画			
	1	【内容】	第1回:教育心理学での学び
		【授業外学習】	事前:教育心理学の方法論等についてインターネット等で調べる。 事後:学修内容をノートに整理し、教育心理学の特徴を確認する。
	2	【内容】	第2回:「やる気」「頭の良さ」と教育心理学
		【授業外学習】	事前:「動機づけ」「知能」についてインターネット等で調べる。 事後:日常生活にみられる行動等との関係を含め、学修内容をノートに整理する。
	3	【内容】	第3回:知能と知能検査
		【授業外学習】	事前:「知能」「知能検査」についてインターネット等で調べる。 事後:知能検査の分類や能力評価の方法などについてノートにまとめる。
	4	【内容】	第4回:動機づけと意欲
		【授業外学習】	事前:「学習性無力感」「自己決定理論」についてインターネット等で調べる。 事後:動機づけに関する理論をノートに整理する。
	5	【内容】	第5回:記憶とそのメカニズム
		【授業外学習】	事前:記憶・忘却・学習曲線についてインターネット等で調べる。 事後:記憶の3ステージの特徴などを中心にしてノートに整理する。
	6	【内容】	第6回:学習に関する諸理論
		【授業外学習】	事前:バプロフ・ソーランドイク・スキナーという人物についてインターネット等で調べる。 事後:学習に関する諸理論をノートに整理する。
	7	【内容】	第7回:青年期までの発達

	8	【授業外学習】	事前:ピアジェ・アイゼンバーグという人物についてインターネット等で調べる。 事後:発達の段階について、諸理論を概要してノートに整理する。			
		【内容】	第8回:思いやり行動と心理学			
	9	【授業外学習】	事前:道徳性の発達段階についてインターネット等で調べる。 事後:コールバーグの発達段階等を中心にして道徳性・思いやり行動等についてートに整理する。			
		【内容】	第9回:個人の特徴とパーソナリティ			
	10	【授業外学習】	事前:Big-Fiveについてインターネット等で調べる。 事後:パーソナリティを捉える方法などを中心にノートに整理する。			
		【内容】	第10回:攻撃性			
	11	【授業外学習】	事前:アイヒマン実験にいてインターネット等で調べる。 事後:攻撃性の分類や生成メカニズムについての学修内容をノートに整理する。			
		【内容】	第11回:学校適応の課題(不登校)			
	12	【授業外学習】	事前:近年の不登校児童・生徒数の推移をインターネット等で調べる。 事後:不登校理解の歴史的変遷や対応方法を中心に、本時の学修内容をノートに整理する。			
		【内容】	第12回:学校適応の課題(いじめ)			
	13	【授業外学習】	事前:いじめ防止対策推進法の概要をインターネット等で調べる。 事後:グループ・ダイナミックスの視点等から、本時の学修内容をノートに整理する。			
		【内容】	第13回:学級集団の理解と課題			
	14	【授業外学習】	事前:Q-Uアンケートについて、インターネット等で調べる。 事後:子どもたちの対人関係の理解やその方法等についてノートに整理する。			
		【内容】	第14回:学校不適応への対処			
	15	【授業外学習】	事前:カウンセリング・教育相談についてインターネット等で調べる。 事後:カウンセリングの背景にある考え方等について本時の学修成果をノートに整理する。			
		【内容】	第15回:教育心理学に関する総括と総括レポート作成			
授業方法	スライドを用いた講義形式。ただし、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の実現のため、授業内で適宜、質問やディスカッションを行う。また、授業内で、授業の要点や課題等をまとめるリアクションペーパーの作成を求める場合がある。授業への積極的な参加を期待する。提出された課題については授業中にコメントを行う。					
成績の評価方法	総括レポート20%、リアクションペーパー(ノート)60%、平常点20%で評価する。総括レポートは、用語や人名の基本的知識に加え、授業内で扱った理論や実験の内容を総括するものである。リアクションペーパーは「授業の重要なポイント等を専門知識のない人が見て理解できるように、分かりやすいものとなっているか」等によって評価する。平常点は主に授業内での質問への回答やディスカッション等への参加によって評価する。居眠り、スマートフォン操作、私語などによる授業への不参加は極めて重大な減点対象となる。					
成績の評価基準	総括レポートの得点、リアクションペーパー(ノート)の内容、授業への参加を達成目標に照らして評価し、総合して60点以上を合格とする。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、総括レポート等の得点にかかわらず不合格とする。					
教科書						
参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『わかりやすい教育心理学』	榎本博明	サイエンス社	2530	978-4-7819-1501-2